

都立板橋有徳高校定時制で 佐瀬一洋・順天堂大学教授が出張授業

東京都板橋区の都立板橋有徳高校で3月20日、日本対がん協会の協力で行われたがん教育の出張授業が行われた。講師は、循環器の専門医であり、自身も骨軟部肉腫という希少がんの経験者である佐瀬一洋・順天堂大学大学院教授。この日は、定時制の生徒50人を対象に、がんについて約45分の授業を行った。

佐瀬教授は、7年前に悪性の骨軟部肉腫を発症し、手術の前後2年間にわたって抗がん剤による治療を受けた経験を持つ。授業で佐瀬教授は、病気がわかったときには、同じ病気を扱った映画やドラマが作られていて、いずれも主人公が亡くなる悲劇として描かれて、悲しい気持ちになったが、多くの人に助けられて乗り切ったことを紹介。そうしたことへの感謝の気

持ちから、がんについて正しい知識を持ってもらおうと、話していることを明かした。

その上で、長寿化の結果、がんが増え、日本人の2人に1人ががんになることや、3人に1人ががんで亡くなっている状況を説明。日本対がん協会が作成したアニメ動画教材「がんって、なに？」の場面も使いながら、①がんはだれでもなる可能性のある身近な病気である②生活習慣などで予防できる場合がある③早く見つければ治る場合が多い——と強調し、定期的な検診を受けることの大切さや、たばこを吸わないことが第一であることなどを訴えた。

さらに最後に、がんについて正しい情報を見つけることの大切さを強調。



授業する佐瀬教授

ネットには、誤った情報も混在していることを知った上で、情報検索をすることをアドバイスし、国立がん研究センターなど、信頼できる公的な機関の情報発信サイト情報があることを紹介した。国立がん研究センターの情報サイトからは、身近な人ががんになったときにどうするのかについての解説情報も参照できるとして、困ったときに参考にすることを呼びかけていた。